



NO.24-29 2024年10月27日

<テーマ> 違いの中にキリストを告白する群れ
～ 響き合う礼拝とひろば ～

<年間テーマ> 主に望みをおき、出会い結び合わされて

<聖句>

イザヤ書 40:28～31

～主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れない。

エフェソの信徒への手紙 4:16

キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり
組み合わせられ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成
長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

「質草を取り戻せ」

牧師の仕事の傍ら、日本蜜蜂の養蜂をしています。地域の多様な生態系に貢献をする蜜蜂は、経済的にも牧師の生活を支える「福業」になっています。イエスに憧れて大工仕事を覚え、木工職人もしています。お箸やスプーン、小さな木彫りの人形を作って、そこそこ喜ばれています。昔からバイク好きでしたが、今はリッター60 キロ近く走るスーパーカブに乗っています。週に1回、ダム建設反対の座り込みをしています。不要なダムのために約 50 数人が暮らす美しい里山の集落がまるごと強制収用され、行政代執行されようとしている現場です。活水女子大では「聖書と現代社会問題」の講義をして、LGBT を含む性差別や部落差別、民族差別などの差別問題、原発や農薬、生物多様性などの環境問題を聖書との関わりで語っています。授業の中で必ず課題と関係する曲をギターを弾いて歌います。RADWIMPS やセカオワや羊文学など、聖書と関連する良い曲がたくさんあります。これらすべて、質草にしてしまった大切なものを取り戻すための小さな取り組みでもあります。【深澤 奨】

深澤 奨 (ふかさわ しょう) 牧師 プロフィール

日本キリスト教団佐世保教会牧師。活水学院理事・非常勤講師(キリスト教学担当)。1967年牧師の家庭に生まれる。東京神学大学・大学院卒業。初任地も現任地も米海軍の街にあり、反戦平和運動はライフワーク。趣味はギター、木工など。教会の裏庭で養鶏、養蜂を営む。

日本バプテスト連盟

神戸バプテスト教会

牧師 井形 英絵

主日礼拝

毎日曜日 午前 10:30～11:45

共育のひろば

第1・2日曜日 午前 11:45～12:40(成人クラスA・B・C)

第2・3・4日曜日 午前 11:45～12:40 (小学生クラス)

幼稚園C・S

日曜日 午前 9:00～10:20(10月27日、11月10日)

ひまわりひろば

日曜日 午前 9:00～10:20(10月27日、11月10日)

祈禱会

毎水曜日 午後 19:00～20:15

教会についてのお問い合わせ、バプテスマの希望や他教会からの転入、またご相談のある方は牧師、又は教会事務局までご連絡ください。

〒650-0003 神戸市中央区山本通 1-7-27 TEL078-231-7187 FAX078-221-5252

ホームページ: kobe-church.com 事務局Eメール: jimukyoku@kobe-church.com



祈りの課題

- 1、深澤奨牧師のお働きと送り出して下さった佐世保教会の礼拝と福音宣教のお働きを覚えて。
- 2、神戸バプテスト教会 2024 年度福音宣教と諸計画諸活動のために。
- 3、光の丘幼稚園園児・保護者・教職員ために。新園児の募集を覚えて。
- 4、井形英絵牧師の働きと健康が守られますように。
- 5、能登半島豪雨・地震、宮崎地震、山形大雨災害、世界各地で被災された方々、支援にあたっておられる方々のために
- 6、イスラエル、パレスチナ、スーダン、ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナとロシアなど紛争と戦争の只中にある方々の命が守られますように。すべての人々のいのちが尊重される自由と平和が実現しますように
- 7、台湾地震、モロッコ、リビアの災害、トルコ・シリア大地震で被災された方々の命と日々の生活が守られますように。
- 8、子どもたちの心と体の成長が守られますように。
- 9、病の中にある方、療養中の方、その方々を支えておられるご家族のために。
- 10、困難の中にいる方々と共に生きるすべてのキリスト教会と信徒の信仰生活の守りのために。
- 11、新会堂建築計画の導き。会堂建築委員会の働きのために。
- 12、これからの神戸教会のために。教会員が共に語り合い、主の御心を求めることができますように。

【連盟・連合・他教会の祈り】

- ◆日本バプテスト連盟の全国 316の教会・伝道所のために。特に連盟の機構改革と新しい体制での働きのために。第70回定期総会（2025年2月）と準備のために。
- ◆関西地方教会連合の36教会のために。2024年度の連合の働きのために。

交読 一コリント13:1〜13 「愛の賛歌」

たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、

愛がなければ、わたしは騒がしいドラ、やかましいシンバル。

たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神祕とあらゆる知識に通じていようとも、

たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、

愛がなければ、無に等しい。

全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、

誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、

愛がなければ、わたしに何の益もない。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。

愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない。

預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、

幼子のように思い、幼子のように考えていた。

成人した今、幼子のことを棄てた。

わたしたちは、今は鏡におぼろに映つたものを見ている。

だがそのときには、顔を顔とを合わせて見ることになる。

わたしは、今は一部しか知らなくとも、

そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

（一同）の中で最も大いなるものは、愛である。